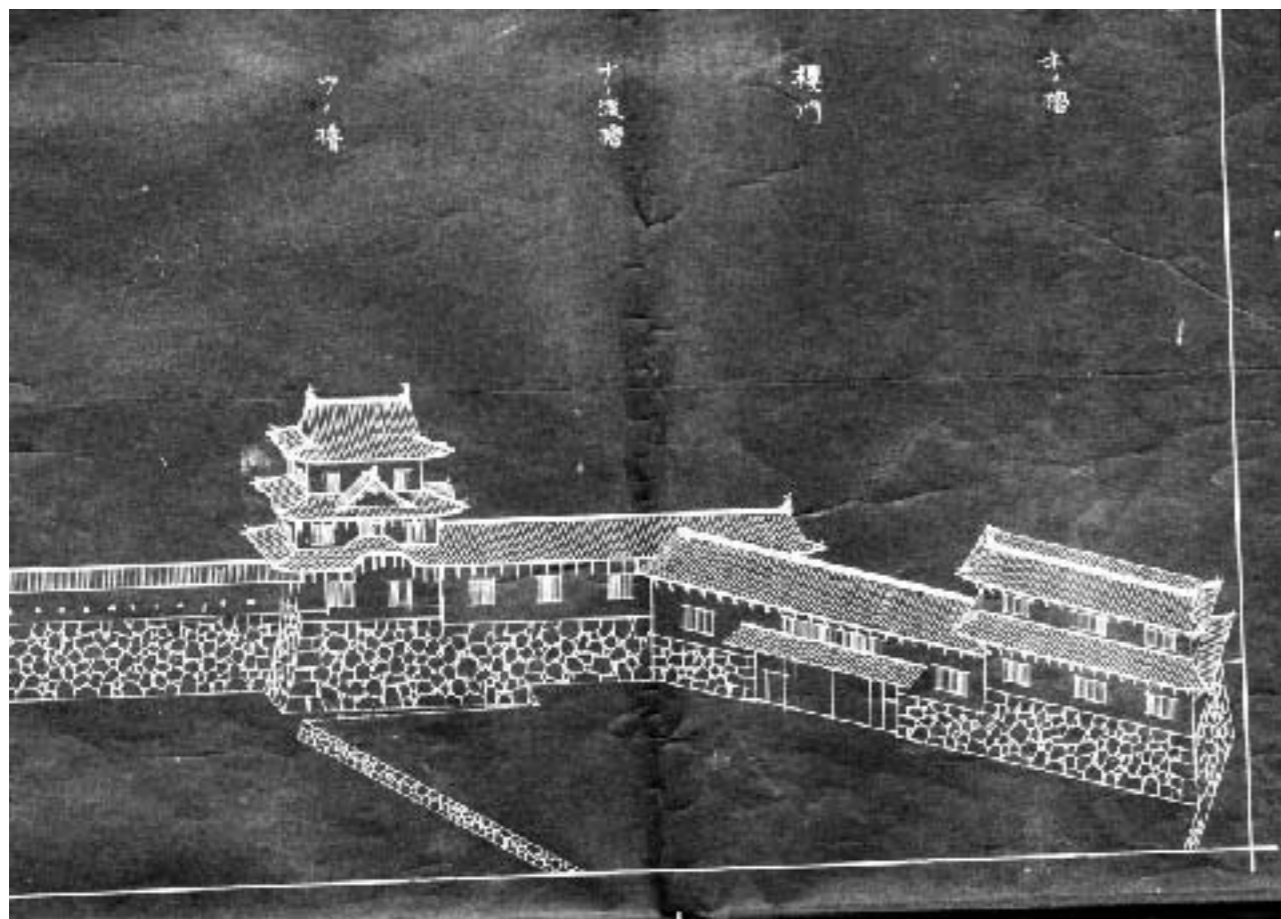


# 見えてきた姫路城復旧計画

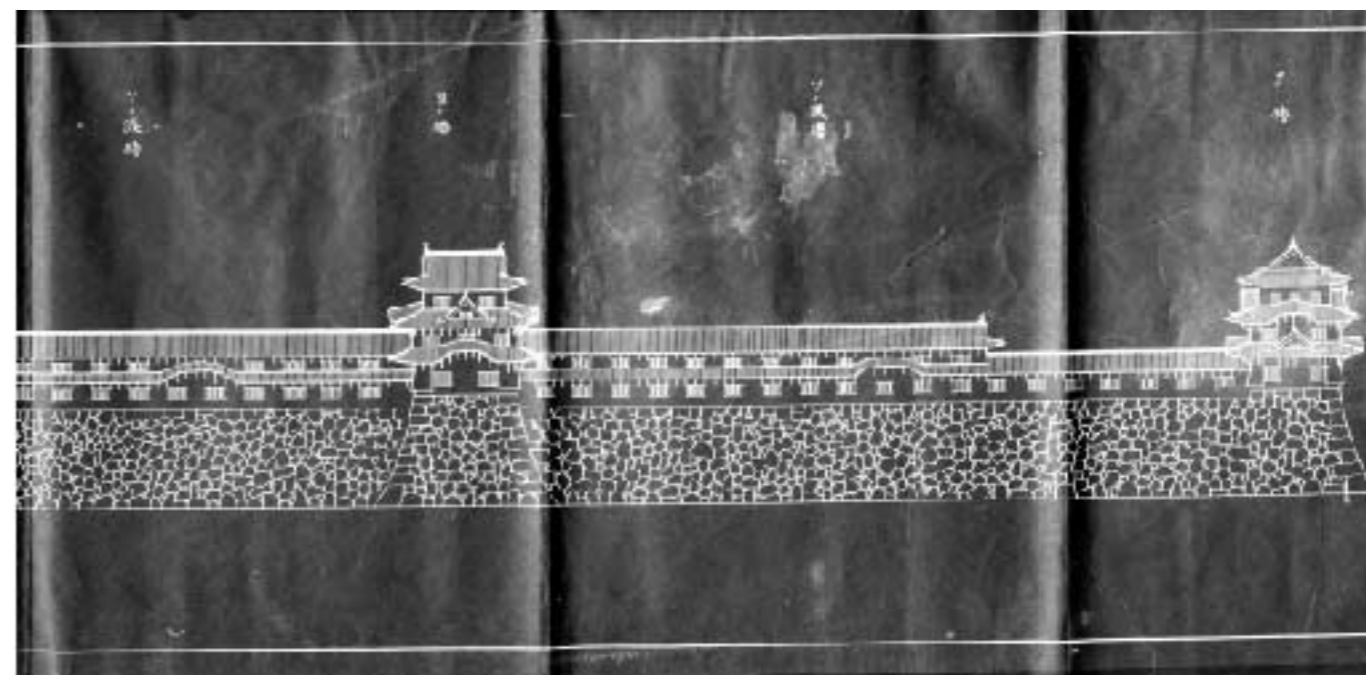
## ◆姫路市職員が描いた三ノ丸復興計画①◆

姫路市は姫路城三の丸から歩兵第十連隊が転出したことを受けて、昭和10年代に三の丸を中心に「姫路城跡復旧計画」を打ち立てたとされる。残念ながら戦争のために復興計画は幻となってしまい、いまではわずかに大手口桜門の高麗門に、かつての大きな夢の跡を偲ぶことができるだけである。

このたび城郭研究室では、その計画に関わる資料の一部を入手することができた。ここでは、その計画資料について紹介していきたい。

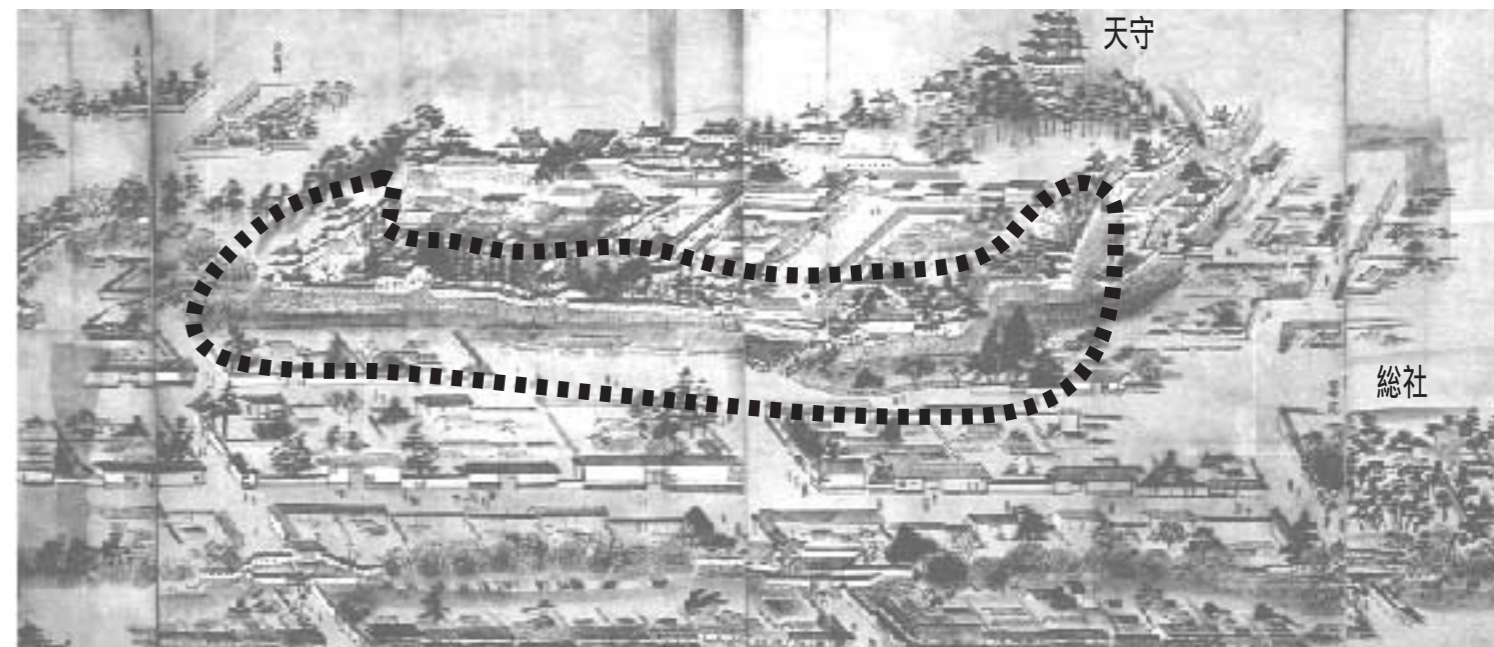


▲図1 「三の丸城址復旧櫓郭景観図」と裏書された図面（大手桜門部分を抄出） 青焼陰画  
1枚の図面中に、三の丸北西隅の「よノ櫓」から大手を経て菊門三重櫓までを、3区画にわけて立面図を描かれている。



▲図2 三の丸西側の櫓群（好古園方向より見た立面） 図1と同じく抄出  
右端の三重櫓が「れノ櫓」だが、図中では「タノ櫓」と記載されている。全体として、櫓名称に錯誤がある。

点線；「三の丸城址復旧櫓郭景観図」から推察される、復旧計画で予定されたとみられる櫓群の範囲



▲参考；大谷隆信氏所蔵「姫路城図屏風」部分

資料をみていくと、青焼図面には「姫路市役所土木課営繕係」と書かれたものが散見される。また、公印付き回答文書の綴りは昭和16年のもので、宛先が「姫路市役所庶務課長 中塚亀市殿」となっている。この綴りは、管理に関わる規則や予算書、入園券の見本など、いずれも城跡公園を管理する他都市から送られた文書からなっている。そして、姫路招魂社建立に関わる図面も含まれることから、昭和13年から17年ころまでの姫路城跡管理に関わる公文書ということができる。



“Shiro Fumi” No.11 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.

「城踏」の様子